

読み書き困難の 集団アセスメント発表会

2023年2月19日（日）
14時～16時30分

ZOOM開催
NPO法人エッジ

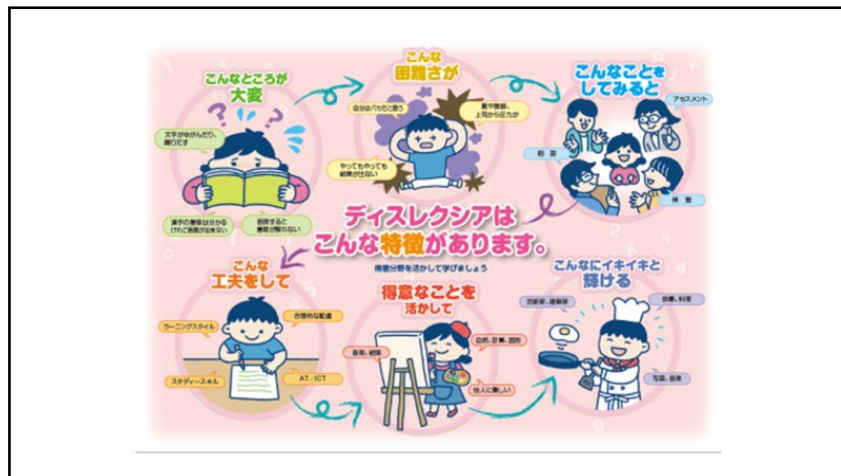


[Vecteezy.com](https://www.vecteezy.com)のイラストレーション素材

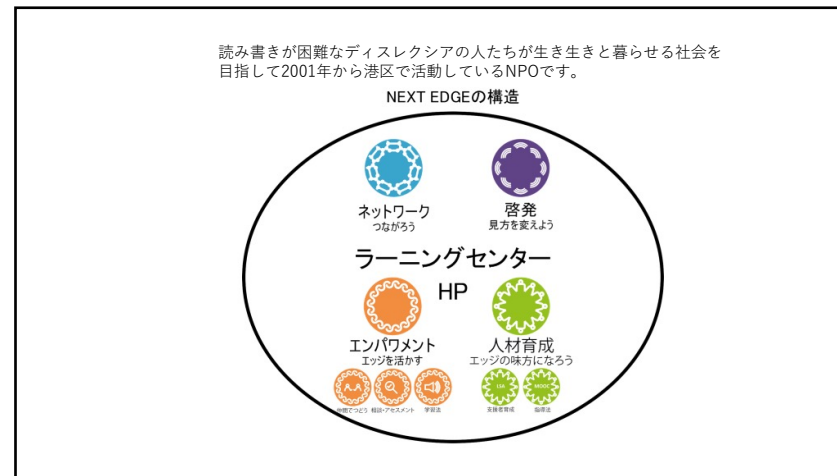
Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

目次

	講師	ページ
趣旨説明・集団アセスメントの必要性	藤堂栄子	p. 3～p. 4
読み書きの集団アセスメントの内容と意義	河野俊寛	p. 5～p. 10
星槎国際高等学校での実施結果	安部雅昭	p. 11～p. 13
港区での試み		
ー 概要	藤堂栄子	p. 14～p. 16
ー アプリを活用すると得られる情報	朱 心茹	p. 17～p. 21
ー 実際のアセスメントについて	田中美知子	p. 22～p. 24
ー 検査結果・アンケートから見えること	河野俊寛	p. 25～p. 28
小田原での取り組み	上條大志	p. 29～p. 32
まとめ	河野俊寛	p. 33
エッジからのお知らせ	藤堂栄子	p. 34



1



2

ディスレクシアとは？

- 読みの困難、その結果の書きの困難
- まるっきり読めないわけではない
- 生まれつき、治らない
- 見た目わからない
- 人口の10%いる(欧米では20%も)
- **スピード、正確さと流暢さに劣る**
- 日本語<英語
- 他にも計算障害、協調性運動障害、ADHD、感覚の鈍麻・過敏

•不便だが、不幸ではない

3

ディスレクシアへできる対応

- 気づき⇒ 早期発見早期対応
- **アセスメント ⇒ できることを伸ばして、困難なことを補完する**
 - ⇒ 一人ひとりにあった読みやすい、わかりやすい教材や指導法、環境整備
 - ⇒ 合理的な配慮(調整と変更)
 - 時間延長、ICTの活用など
 - ⇒ ラーニングスタイルに合ったスキルの習得
 - タッチタイピング、マインドマッピングなど
 - 多感覚・MIを使ったアプローチ
 - ⇒ 本人のエンパワメント

4

アセスメント

- 日本語のアセスメントを独自に開発する必要があった 英語圏では30年前には確立されていた
- 医療機関では教育的なソリューションを出すことができない
- 教育的診断が必要だがそのような機能がある機関が非常に少ない
- 個別では費用が掛かる、気が付いて保護者がアセスメントができる機関につながる必要がある

5

集団アセスメントの必要性

- 全体でスクリーニングすることにより、早期に対応を始めることができる
- 必要に応じてより詳細な検査などを行うことができる
- 家庭環境や社会経済的な理由で見逃される児童生徒をなくす
- 通常学級の中ですぐにできる対応に結び付けることができる

6

読み書きの集団アセスメント の内容と意義

河野 俊寛

北陸大学

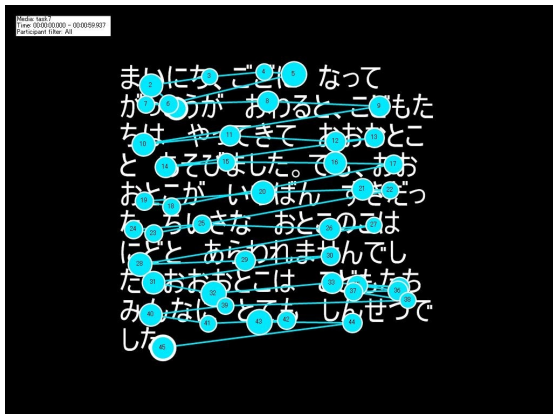
博士（学術） 公認心理師 言語聴覚士

1

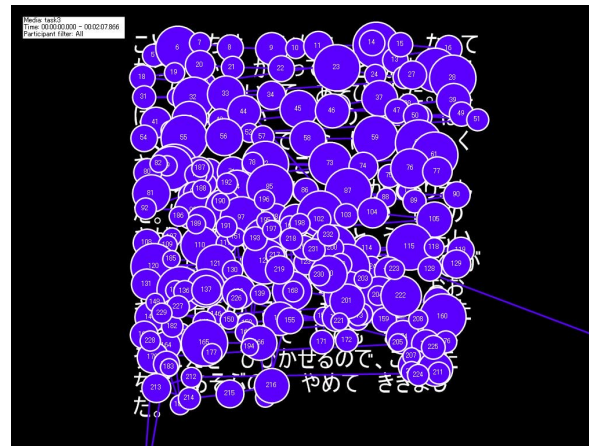
読み書き障害 (ディスレクシア)

2

読みの目の動き



3



4

「読み書き」のレベルの区別

「低次」の読み書き

「高次」の読み書き

9

「低次」の「読み書き」

「読み」
文字→音

「書き」
音→文字

10

「高次」の「読み書き」

「読み」
文字列→意味理解

「書き」
意味内容→文字列

11

「低次」の読み書きの正確さと流暢さの困難

読み書き障害

12

~~文字 → 音~~
自動化

13

~~音 → 文字~~
自動化

14

「高次」の読み書き
には困難がない

15

「低次」の読み書きの「正確さ」と「流暢さ」を測定

↓

判定可能


16

「検査」というハードル

- 読み書き検査を実施している機関が少ない
- 読み書き検査を実施している医療機関では、予約を取ることさえ難しい
- 費用が高い

17

読み書き検査の個別実施




集団実施

18

集団実施のための検査バッテリー

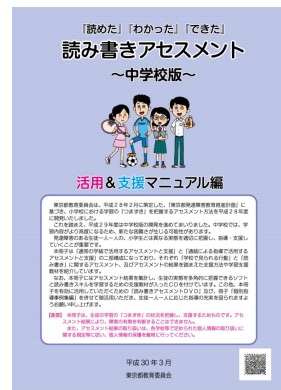
	正確さ	流暢さ
読み	東京都教育委員会 アセスメント (漢字)	東京都教育委員会 アセスメント (単語探索課題)
書き	聴写課題 (仮名)	小中学生の読み書きの理解

19



平成29年3月
東京都教育委員会

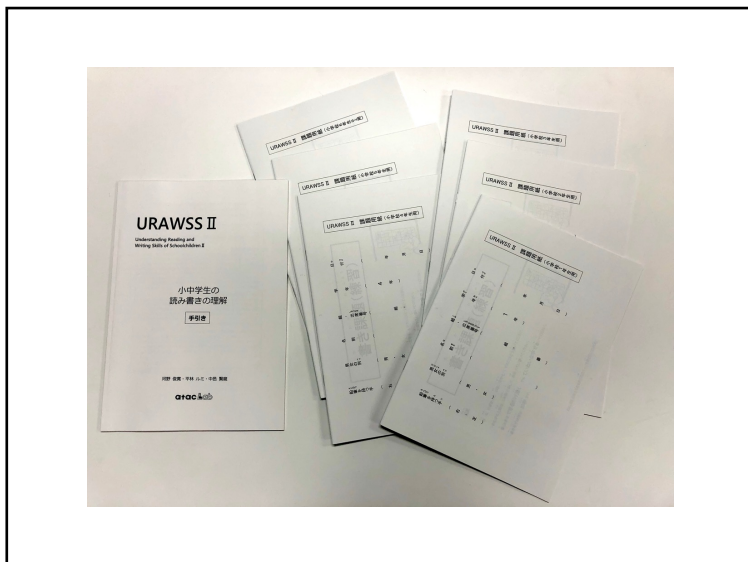
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/special_needs_education/files/guideline/yomikakiasessment.pdf



平成30年3月
東京都教育委員会

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/special_needs_education/files/assessment_manual/assessment_manual_01.pdf

20



21

聴写課題

10題あり、助詞や特殊音節などを含む二文字以上の単語及び十文字までの文章をひらがなまたはカタカナで書きとる課題

○

22

聴写における誤り数の学年平均と標準偏差

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
誤り数(個) (標準偏差)	1.61 (1.89)	0.83 (1.22)	0.56 (1.01)	0.38 (0.73)	0.24 (0.51)	0.19 (0.51)

平成21年度「発達障害等に対応した教材等の在り方に関する調査研究事業」(東京大学先端科学技術研究センター 人間支援工学分野)による長野県内小学校調査より

森田ら(1993)が、視写と聴写を比較して、聴写での誤り検出が有効であることを報告している。

23

SEISA

Wellbeing な学校生活へ

アクセシビリティを高める環境作り

星槎国際高等学校 安部雅昭

せいの『槎』とは？

『いかだ』の意・・・どんないかだ？
 同じ太さの木を集めて作る筏ではない！
 太さや大きさの違う木を使って組んだ『いかだ』

- ①木に差がある・・・『個性』
- ②槎 (いかだ)・・・『支えあう』『補い合う』

そんな共生社会を目指す！



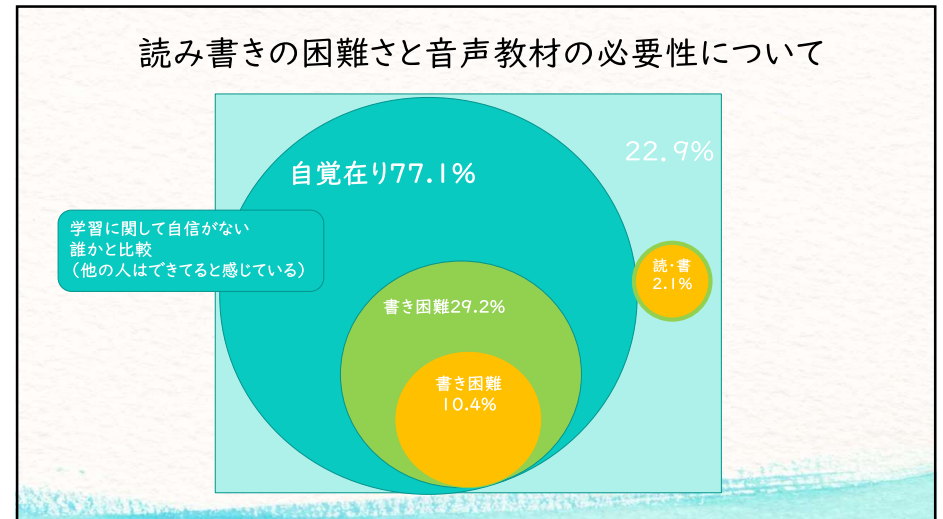
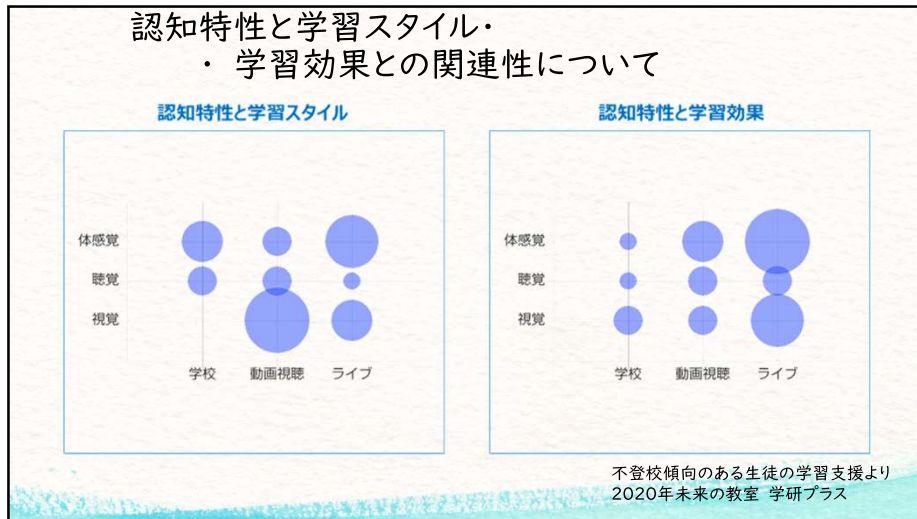
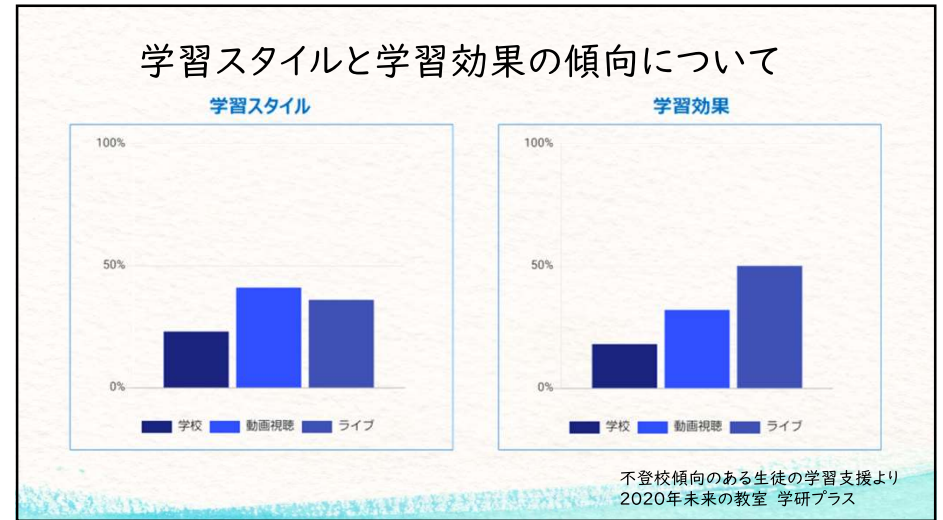
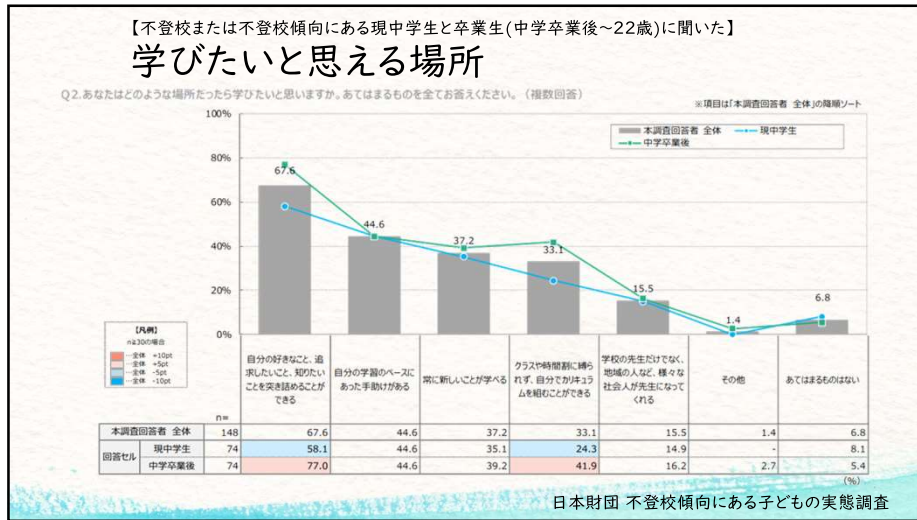
【現中学生に聞いた】中学校に行きたくない理由

<中学校に行きたくない理由TOP10>

赤字は①～③非該当 青字は④～⑤非該当(比べて20%以上高い項目)

順位	①-1. 1年間に合計30日以上、学校を休んだことがある/休んでいる	①-2. 1週間以上連続で、学校を休んだことがある/休んでいる	②-④いずれか選択	⑤. 基本的には教室で過ごし慣れたことをしているが、心の中では学校に通いたくない/学校が辛い/嫌だと感じている
1位	寝れる (25.7)	朝、起きられない (59.5)	寝れる (38.2)	寝れる (48.7)
2位	朝、起きられない (19.2)	寝れる (58.2)	朝、起きられない (32.6)	朝、起きられない (32.2)
3位	テストを受けたくない (16.0)	学校に行こうとすると、体調が悪くなる (52.9)	自分でもよくわからない (31.0)	授業がよくわからない/ついていけない (33.3)
4位	自分でもよくわからない (15.0)	授業がよくわからない/ついていけない (49.9)	友達とうまくいかない (30.1)	学校は居心地が悪い (28.4)
5位	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (13.0)	学校は居心地が悪い (46.1)	授業がよくわからない/ついていけない (29.2)	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (28.2)
6位	部活がハード (11.8)	友達とうまくいかない (46.1)	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (28.9)	テストを受けたくない (27.0)
7位	授業がよくわからない/ついていけない (11.6)	自分でもよくわからない (44.0)	学校に行こうとすると、体調が悪くなる (28.1)	授業がよくわからない/ついていけない (27.3)
8位	友達とうまくいかない (10.1)	学校に行く意味がわからない (42.9)	学校は居心地が悪い (24.5)	学校は居心地が悪い (25.9)
9位	校則など学校の決まりが嫌だ (7.1)	先生とうまくいかない/嫌れない (38.0)	先生とうまくいかない/嫌れない (23.4)	校則など学校の決まりが嫌だ (22.5)
10位	小学校の時と比べて、つまらない (6.7)	小学校の時と比べて、良い成績が取れない (33.9)	テストを受けたくない (23.2)	小学校の時と比べて、つまらない (21.8)

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査



読書スクリーニング検査

NO	書き課題	読み課題	介入の効果	本人の主観	自覚
1	A	A	無	4	有
2	C	C	無	3	有
3	A	A	無	4	有
4	A	A	無	2	有
5	A	A	無	2	無
6	C	A	無	1	有
7	A	無記入	有	2	有
8	A	A	無	3	無
9	A	A	無	1	有
10	C	A	有	1	有
11	C	C	有	5	有
12	A	A	無	1	有
13	A	A	無	5	有
14	B	A	無	4	有
15	A	A	有	5	有
16	A	A	有	3	有
17	B	A	有	5	有
18	A	A	有	1	有
19	A	A	有	3	無
20	A	A	無	3	無
21	B	A	無	3	有
22	B	A	有	5	無
23	C	C	有	3	有
24	A	A	無	1	無
25	B	B	有	5	有

アセスメント結果

- ・自覚していても
- ・自覚がなくても
- ・効果があっても

配慮願いの提出

定期試験等に関する配慮願い

皇様国際高等学校
横浜鶴屋学習センター長殿

定期試験の受験にともない、以下のような困難がありますので、配慮いただいております。

1. 以下のような困難があります。(該当するものの番号に○をつける 複数回答可)

- ①文字を書くことに時間がかかり、試験時間内で書ききれない
- ②文字が小さすぎると読めないことがある。
- ③読み書きが困難であり、問題文を正しく判読できないことがある。
- ④自分の書いた字を判読することが難しく、思った回答を記入できないことがある。
- ⑤字跡集団のなかで過ごすことが難しい。
- ⑥その他(その他あれば記入)

2. 以下のような配慮を希望します。(希望するものの番号に○をつける 複数回答可)

- ①試験時間の延長 (1.3倍)
- ②試験時間の短縮 (30分)
- ③拡大した問題用紙・解答用紙での回答
- ④タイピング・フリップ入力による回答
- ⑤音声読み上げソフトを用いて回答
- ⑥別室での受験
- ⑦漢字に読み返るふたつ問題用紙・解答用紙での回答
- ⑧その他(あれば記入)

他者との違いに拒否感を持っている

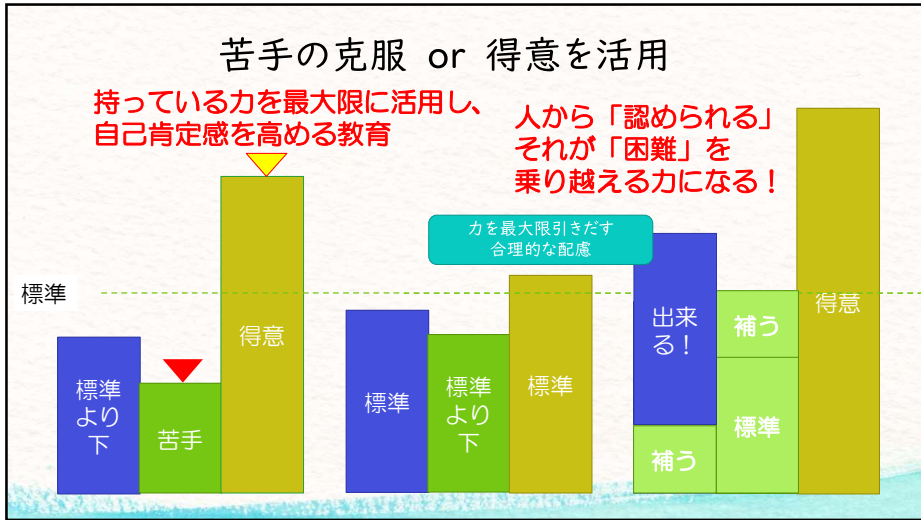
無力感を学んできている

学習への諦め(そういうものだ)

文章量・文字(大きさ・ルビ)への配慮

記入量の調整

授業の選択(活動から学ぶ)



障害の有無にかかわらず一定の割合で有効

大人の「気づき」

- 気づき的手段 ➡ 集団アセスメント
- 配慮 ➡ 本人への伝え方
- サポートを活用する習慣作り ➡ 身近な活用

- 困難を示す人が選択 ➡ 誰でも選択できる!
- 使用するための準備 ➡ 誰でもいつでもアクセスできる

港区での取り組み

概要

藤堂栄子

- 8月に教員に研修、教育委員会より事業に関する情報を校長、副校長、特別支援教育担当者などに適宜出している
- チラシにアプリのQRコードを載せ、アプリの質問に回答することで読み書きに困難がありそうかを判定、困難がありそうな生徒は集団アセスメントを受けられるよう誘導
- | | |
|---|-----|
| ・ 1回目説明会参加者（アーカイブを含む）
（集団アセスメント実施日の初日に行った） | 80名 |
| ・ アセスメント参加者 | 61名 |
| ・ 2回目説明会参加者（アーカイブを含む）
（検査結果送付1ヶ月後に実施） | 24名 |
- アンケート2回実施
1回目：検査結果送付直後
2回目：2回目説明会実施後

1

第一回説明会

ディスレクシアとは
どんな検査をするのか
検査から何がわかるのか
実際の検査結果から何ができるのか

2

集団アセスメント

- 書き写す（スピード+正確さ）
- 黙読して内容理解、音声で聞いての内容理解
- 漢字の読み（正確さ）
- 漢字の書き（正確さ）
- ひらがなの読み（スピード）

使用検査：

URAWSS II、東京都読み書きアセスメント

3

集団アセスメントでわかること

読み書きの困難があるのかどうか
 ー音で聞いたほうが分かり易いのか
 ー読むスピード、流暢さはどの程度か
 ー読む正確さはどの程度か
 ー書くスピード、流暢さはどの程度か
 ー書く正確さはどの程度か

4

5

集団アセスメントの結果でできること

クリーム色や赤があったら

- 本人と保護者が自分の傾向を知ることができる
- 本人にあった学習方法の方向性が分かる
- 家庭や塾、家庭教師、放課後等児童デイサービスなどでできる工夫を始められる
- 学校へ相談をして、教室の中でできる指導法、支援法、教材の工夫などを始めるためのヒントがある

6

集団アセスメントの結果でできること

赤があったら

- 学校と相談を始める
- より詳しい具体的な状況を知り、「合理的な配慮」を受けるために検査・アセスメントを受けることができる
- 特別支援教室などでの対応に関しては教育センターへ相談をする

7

集団アセスメント後の説明会

- 結果の見方、活用の仕方
- できる支援について
 - RTI
 - 読みやすくする
 - 書くことを補う
 - ICTの活用
 - スタディースキル

8

2回目アンケートから

藤堂栄子

新たにやってみようと思った支援は？

- ・就学相談を利用したり、学校へ合理的配慮の相談をしたりする
- ・「低次の読み」から「高次の読み」へシフトした支援（書くことよりも読めることを重視すること分かち書き、読解力重視、マインドマップ、タッチタイピング）
- ・読むことで本来増えるはずの語彙が全く増えてないため、その他のメディアにより日常生活では拾えない語彙を増やすようにしたいと思いました。また、読み上げ機能等を導入して学習させてみようと思っています。

新たにやってみようと思った学校への働きかけは？

- ・担任の先生や学習支援員への情報共有
- ・子供の特性を知ってもらう事、どのような配慮が可能か相談する事
- ・今回の結果を伝えることから始めます。

「読み書きチェック by NPOエッジ」のご紹介

読み書き困難の集団アセスメント発表会

東京工業大学 環境・社会理工学院
助教 朱心茹 (しゅしんじょ)

2023年2月19日



1

もくじ

- 00 自己紹介
- 01 「読み書きチェック by NPOエッジ」について
- 02 利用状況について
- 03 活用方法について

2

2

自己紹介

朱心茹 (しゅしんじょ)

東京工業大学 環境・社会理工学院 助教

書体研究・記号論が専門

ディスレクシアに特化した書体の研究が
きっかけでEDGEの活動に携わる

「読み書きチェック by NPOエッジ」を開発

zhu.x.ac@m.titech.ac.jp

3

3

自己紹介

朱心茹 (しゅしんじょ)

東京工業大学 環境・社会理工学院 助教

書体研究・記号論が専門

ディスレクシアに特化した書体の研究が
きっかけでEDGEの活動に携わる

「読み書きチェック by NPOエッジ」を開発

zhu.x.ac@m.titech.ac.jp

 じぶんフォント



<https://www.jibun-font.com/>

4

4

「読み書きチェック by NPOエッジ」について

5

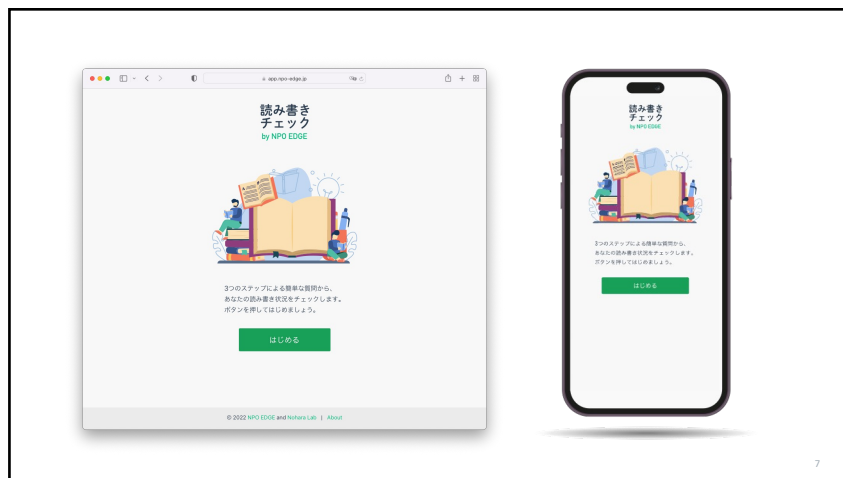
「読み書きチェック by NPOエッジ」とは

- 自分の読み書きの状況を簡単にチェックできるウェブアプリケーション
- インストール不要でブラウザからすぐにアクセスできる



<https://app.npo-edge.jp/>

6



7



8

利用状況について

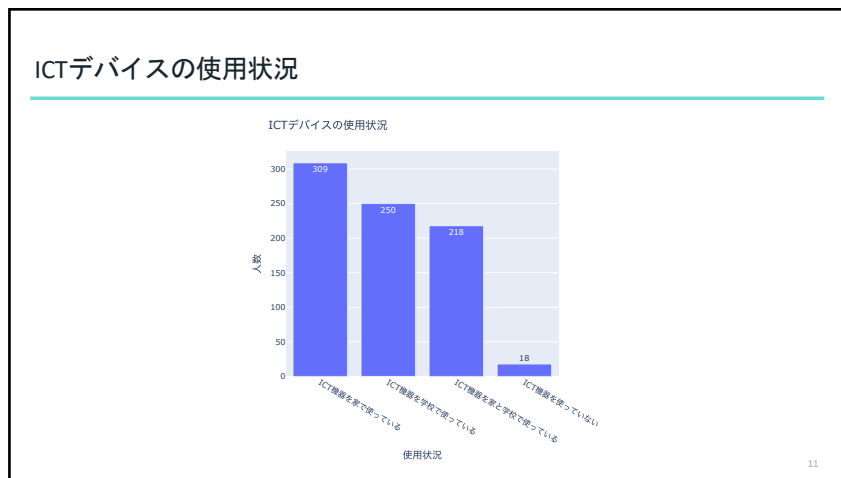
9

回答数

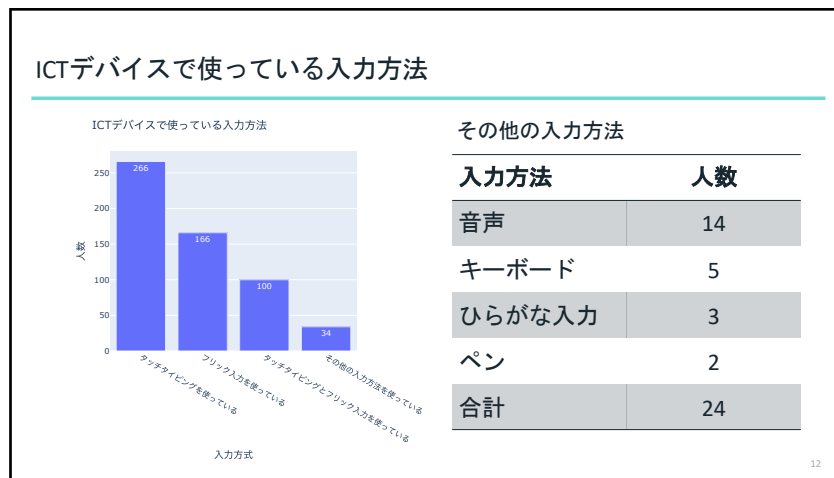
回答数	
2022年10月	318
2022年11月	36
2022年12月	5
2023年1月	4
合計	363

集団アセスメント前の利用が多い

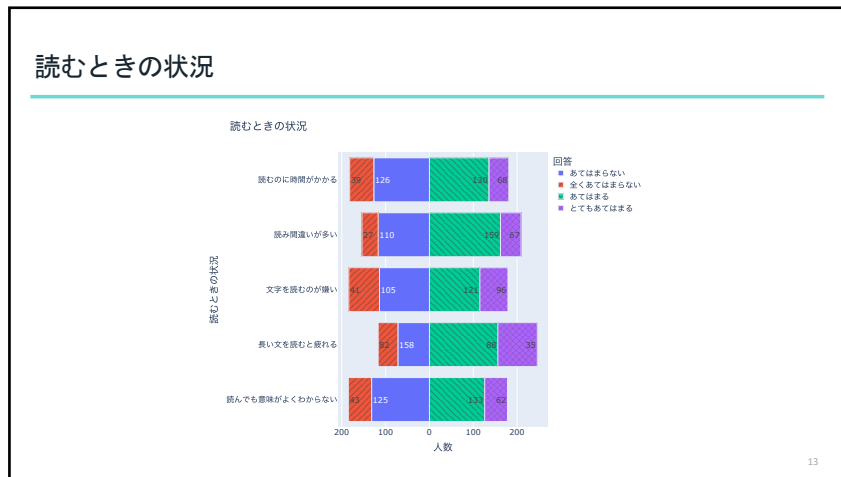
10



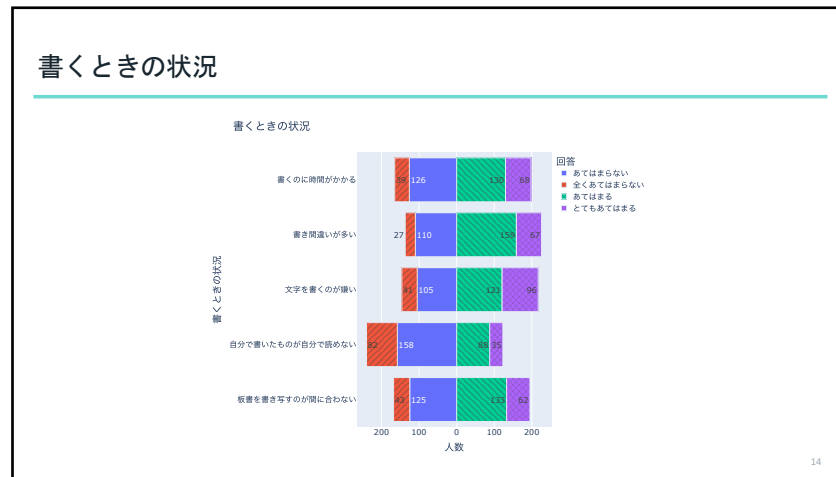
11



12



13



14

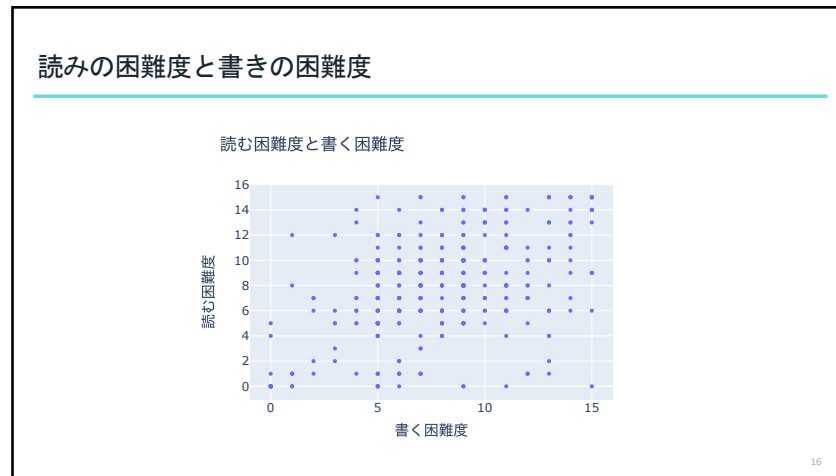
(参考) ディスレクシアの発現率 (正確性)

英語圏 : 10~15% (Vellutino & Fletcher, 2005)
 日本語 : 約8% (Uno et al., 2009)

	読み	書き
ひらがな	0.2%	1.6%
カタカナ	1.4%	3.8%
漢字	6.9%	6.0%

クラスに2~3人いる

15



16

活用方法について

17

開発中の機能

- グループIDの発行と入力
- 出席番号などの入力
- チェック結果の非表示
- 回答番号の発行

18

今後の活用方法

- グループIDの発行と入力 → 学校・学級単位の回答と結果の確認
- 出席番号などの入力 → 児童・生徒それぞれの結果の確認
- チェック結果の非表示 → 回答者本人ではなく、教師が確認
- 回答番号の発行 → エッジの集団アセスメントや相談で参照

19

今後の活用方法

学校・学級単位の活用について、
お気軽にご相談ください！

edgegroup.assess@gmail.com

20

実際のアセスメントについて

NPO法人エッジ アセッサー
特別支援教育士・公認心理師
田中美知子

1

日程と申込み状況

日程			人数
2022年	11月	5日(土)	29人
		12日(土)	13人
		19日(土)	19人

2

グループ分け (全12グループ)

- アセッサー、スタッフについて
3日間、各日を前半後半のグループに分ける
各日を2人のアセッサーで担当
各グループに4~5名のサポートスタッフが入る

日程	1回目	2回目
11月 5日	アセッサー A アセッサー B	アセッサー A アセッサー B
11月 12日	アセッサー A アセッサー C	アセッサー A アセッサー C
11月 19日	アセッサー B アセッサー C	アセッサー B アセッサー C

3

課題

次の順に行った

- URAWSS-Ⅱ 書字課題 (練習20秒・本番3分)
- URAWSS-Ⅱ 読み課題
- URAWSS-Ⅱ 読みの介入課題
- 聴写課題 10問
- 東京都教育委員会 漢字読み課題 (3分)
- 東京都教育委員会 単語探索課題 (練習・本番1分)

4

集団アセスメントでの配慮点と効果

・教示について

読み上げだけでなく
ホワイトボードも使用してやり方を示した

課題によっては実際に例を説明しながら書き示した

⇒ これにより全体的に教示を理解しやすかったようである

5

・サポートスタッフについて

1グループに4～5名のスタッフを配置した

⇒ お子さんの様子や内容を細かく見ることができた

⇒ 答えを書く場所を見つけられないお子さんに支援できた

6

・グループ分けについて

1日目は2・3年生と4年生以上に分けた

2年生で教示の理解に大変なお子さんがいたため

2日目以降は2年生のグループと3年生以上に分けた

⇒ 2年生の教示内容の理解を一人ずつサポートできた

7

・受付での対応

保護者の方にお子さんの配慮してほしい点を聞く
(申し込み時は記入がなかった方も直接訪ねること
により申し出があった)

⇒ 保護者の方が安心できたようである

⇒ 事前にわかりスタッフも対応できた

8

- 個別対応について

2会場の他に個別対応のできる部屋を準備した

⇒ 会場に入れないお子さんもお母さんと一緒にアセスメントを受けることができた

9

全体を通して

- 教示の理解が難しい場合があるので内容を確認してあげる必要がある
(サポートスタッフが必要)
- お子さんについての必要な情報は事前に保護者の方に申し出てもらう
- 個別に対応できるアセッサーや部屋が準備されていると良い
- 常にページをめくろうとするお子さんにはスタッフの対応が必要
- 注意集中が途切れがちなお子さんには近くにスタッフがいるのが良い
- 読み書き以外の要素として
 - 不器用さからページめくりが遅かったり動作すべてにおいて時間がかかるお子さんがいた
 - こだわりにより計測時間が終わってもやめられず声掛けが必要
 - 一人では部屋に入れない(保護者と一緒に別室対応)
 - 休憩が必要なお子さんがいる
 - 聴覚過敏・トイレが近い等で座席位置を配慮した

10

アセスメント結果・保護者アンケートから見えること

1

集団アセスメントの結果（港区）1

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	合計
受検者	20	11	15	3	5	4	3	61
「問題なし」	10	2	5	0	2	1	0	20
保護者アンケート	5	5	7	1	2	1	1	22

2

集団アセスメントの結果（港区）2

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	合計
保護者アンケート	5	5	7	1	2	1	1	22
子どもの読み書きの困難さについての理解（受ける前）あり	5	4	7	1	2	1	1	21
今まで具体的な支援をしていた	0	1	6	1	1	0	1	10
今まで学校への働きかけをしたことがある	2	2	7	0	1	0	1	13
「問題なし」受検者の保護者アンケートの自由記述欄に「漢字書字に問題」			1		1			

3

集団アセスメントの結果（港区）3

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
今まで具体的な支援をしていた	0	1	6	1	1	0	1
今までの具体的な支援例		学習支援員	ビジョントレーニング 筆記用具の工夫 学習支援員 外部機関での療育	放課後等デイサービス	代読		代読 ICT活用

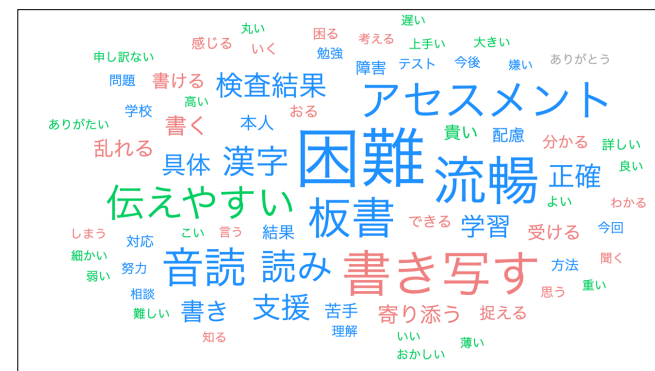
4

集団アセスメントの結果（港区） 4

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
今まで学校への働きかけをしたことがある	2	2	7	0	1	0	1
働きかけ例	個別の声かけ 巡回相談員 ビジョントレーニング	学習支援員	WISC実施 情報共有 学習支援員 板書への配慮		学習支援員		学習支援員

5

保護者インタビュー内の自由記述のテキストマイニング（ワードクラウド）結果
（ユーザーローカルテキストマイニングツール（<https://textmining.userlocal.jp/>））



6

保護者インタビュー内の自由記述例 1

- ・（前略）漠然と書字が苦手そうだ、くらいしかわからなかったもので、具体的な手立てのヒントを得ることができ、ありがたかったです。検査結果について、読みの正確さ、書きの正確さに困難が見られ、読みの流暢さ、書きの流暢さは問題なしと出た。ある意味凸凹しているが、それが意味することとは何かあるか、知りたいです。また、読みの正確さ、書きの正確さに困難があるとは、具体的にどのようなことか、もう少し詳しく解説をいただきたいと思いました（後略）。（小4）

7

保護者インタビュー内の自由記述例 2

- ・ずっと気になっていましたが、上手くアプローチが出来ないでいました。港区の児童相談所さんからエッジさんと繋がっているいろいろアドバイスを受けていたら良いと言って頂きました。保健師さんからも、ディスレクシアはアインシュタインもその可能性が高いと言われました。学んでいきますので、これからもよろしくお願いします。（小2）
- ・概ね予想通りの結果でした。本人が受けたがっていたので、今後は本人にもフィードバックして、対応していきます。（小4）

8

保護者インタビュー内の自由記述例 3

- (前略) 感覚としては、上の子の方が困難は重い症状だったのではと思っていましたが、学校や塾でディスレクシア等の指摘されたこともなかったため、個性の範囲と捉えていたので親子ともに大変な思いをしました。今回はこのように考える機会を与えていただいたので、様子を見ながら、学校や塾と相談しながら息子の困りに寄り添っていかうと思います。(小3)
- 二年生のころから、ディスレクシアを疑っていたのですが、特に相談先もわからず、不安なままここまでできてしまいました。息子には発見が遅くなり申し訳ない気持ちです。また、今回の結果は、親が想定していた苦手分野とは結果が異なっていたため、正直困惑しております。そのため、読み書き困難について、具体的に支援する方法について模索したいと思っています。(小3)

9

保護者インタビュー内の自由記述例 4

- 本人は音読を苦にしておらず、むしろ音読は好きで得意と認識している。(中略) 一方で、書字にはかなりの困難を感じていたため、漢字の学習は得意な鉄道に絡めたりして学習に工夫を施してきた。(中略) 現段階で、漢字のバランスやひらがなの書き順はおかしいが、学習にはなんとかついていっている状況。このような状況と認識していたので、今回のアセスメントで、書字に問題がなく、読字の正確さに問題あり(ピンク)が出て、とても驚いている。(小2)

10

保護者インタビュー内の自由記述例 5

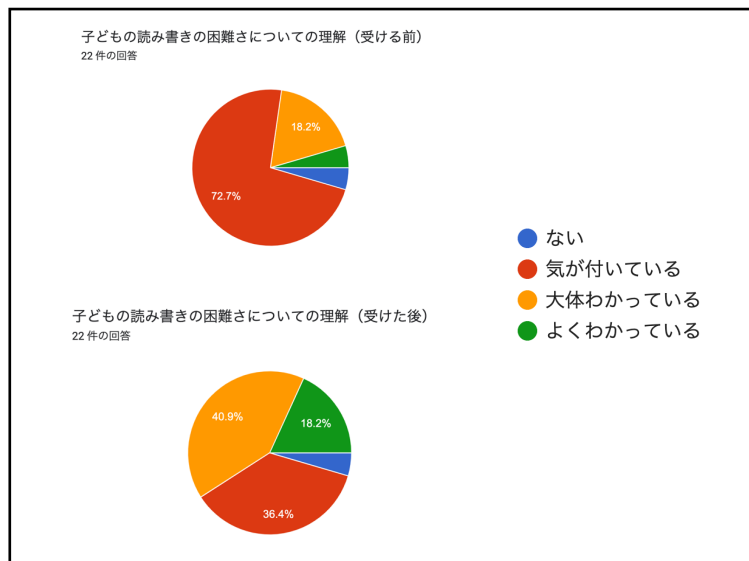
- 読解力が弱いことや漢字(だけではありませんが特に)がなかなか覚えられないことについて、学校生活の中で先生に支援や配慮をどうお願いしていくのがいいのか?(小5)
- 小学校の間は、本人の努力もあり学校の勉強を嫌いになることなく続けてこられた。しかし、来年4月から中学校へ進学し、本人の努力だけではどうにもならないことに直面したとき、親としてできること、学校への働きかけ等具体的な支援の情報を知っておきたい。(小6)
- 書きの困難さへの対応(代筆、デジタル教科書、漢字を選択肢方式にする)は今の小学校で対応できるのでしょうか? 転校が必要にならないのでしょうか?(小2)

11

保護者インタビュー内の自由記述例 6

- 今回の検査結果では、問題なしとのことでしたが、本人の学びたいという思いと書字の苦手意識のバランスをポジティブに受け止めて、自分らしい学習方法を模索したいと思いました。(小4)
- 漢字を書く事にとっても困難を感じています。しかし今回の結果は「問題なし」でした。これまで漢字習得のために様々な方法を試しましたが、どれも成果が得られませんでした。港区立の中学校へ入学予定ですが、具体的な支援や配慮を求めてもよいのかどうか、今後どうしたらいいのか、さらに分からなくなってしまいました。支援や配慮が受けられる基準などはあるのでしょうか。教えて頂けると幸いです。(小6)

12



13

港区での試みからわかること

- 受検者61名中41名（67.2%）に、低次の読み書きの正確性・流畅性の困難があったことから、子どもの読み書きに不安を持っていた保護者が受検していた可能性が高い
- 聴写課題は、（仮名）書字の正確性の評価に有効
- 保護者インタビューの自由記述からは、これまで主観的に感じていた困難さについて確認できた、逆に、困難さの内容が異なっていたとあり、検査の客観的なデータの有効性が確認できた
- 保護者インタビューの中には、検査結果と支援について、より詳しい情報を知りたいという要望があった
- 今回の検査バッテリーでは「問題なし」となった2ケースでは、保護者インタビューの中に、漢字書字に問題がある、とあったので、漢字書字課題をバッテリーに入れるかどうか検討する必要がある

14

2023.2.19
NPO法人エッジ
「集団アセスメント発表会」

小田原の教員有志による取り組み

神奈川県公立小学校
上條大志

1

通常の学級における支援状況の課題

問題となる行動への支援が優先されてしまい…

- ・静かに困っている子が見逃されてしまう!?

専門家にアセスメントをお願いするけど…

- ・「視覚的な手立てを・・・」と言われるだけ!?

読み書きの専門家って…

- ・文字の読み書きを教えているのは!?

「算数の文章問題が出来なくて」と相談されても…

- ・「本をたくさん読ませましょう」とアドバイス!?

通常の学級で担任がアセスメントしているの?

- ・インフォーマルなアセスメントは常にしているはず!?
- ・何をもってフォーマルとするか・・・!?

2

学校でアセスメントは実施可能なのか

言葉の働きや特徴に関する事項	第1学年及び第2学年	第1学年及び第2学年	漢字の読み書きに関する事項
	言葉の働きや特徴に関する事項		
言葉の働きや特徴に関する事項	<p>(7) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p> <p>(4) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。</p> <p>(9) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。</p>	<p>(7) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(4) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当された漢字を第1学年で使うこと。</p>	<p>(7) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(4) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当された漢字を第1学年で使うこと。</p>

- ・小学校学習指導要領解説(国語編)では、平仮名及び片仮名、漢字の読み書きの指導が位置付けられている。
- ・学習の定着を確認するためにテストは、現在も各学校で実施されている。平仮名及び片仮名、漢字の読み書きも同様に考えることができるのではないか。

3

有志により読み書きアセッサー養成講座の開催

読み書きアセッサー養成講座のご案内

主催：小田原支援教育研究会

目的

教員が、子どもの読み書きの困難さを正しく、根拠をもって理解できるような「アセスメント(assessment)力」と、適切な支援の在り方を考え、提案できる「提案(suggestion)力」の育成を図り、本当の意味での「支援力」の向上をめざしていきます。

特別な認定資格等があるわけではありません。しかし、子どもの困難さを理解する目を養うことで、子どもが安心して学べる教育環境づくりへの確実な一歩となるはずです。




4

読み書きアセッサー養成講座の開催

事前にご準備いただくもの


準備いただく機器・事前 DL いただくもの

- PC またはタブレット等通信機器
- 無線 LAN 環境
- 講義用 PPT 資料 DL
- ZOOM アプリの DL
- 「読み書きアセスメント」(東京都) 次の二次元コードからDL ↓



事前購入いただくもの

- 「特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン—わかりやすい診断手順と支援の実際」診断と治療社 4,180 円 (Amazon 等で購入できます)
- URAWSS II 基本セット(手引き+課題用紙) 2,337 円 ※「II」をご注文ください。右の二次元コードから申込 ⇒



※ DL 方法、購入方法等、ご不明な場合は、ご遠慮なくお問い合わせください。

5

読み書きアセッサー養成講座の開催

日程 ※ 4時間×6日 全6回 すべてにご参加いただくことをおすすめします。

回	日時(仮)	概要	学修内容	資料等
①	R3 11/14(日) 13:00~17:00	オリエンテーションと講義	1. 読みと書きの基礎知識	□ PPT 資料
②	12/26(日) 13:00~17:00	・動画を中心とした講義	2. 読み書きの困難とは	□ URAWSS 基本セット
③	R4 1/16(日) 13:00~17:00		3. 読み書きへの支援	□ 稲垣ガイドライン
④	2/6(日) 13:00~17:00		4. 合理的配慮	□ 読み書きアセスメント (東京都)
⑤	2/27(日) 13:00~17:00	フォローアップ ・講師を招聘した講義	5. アセスメント	
⑥	3/27(日) 13:00~17:00	まとめと事例検討	6. URAWSS II	
			7. 稲垣ガイドライン	
			8. 読み書きアセスメント	
			9. 検査所見	
			ブラッシュアップ、実践、意見書の書き方	講義資料
			事例検討、実践検討	参加者が用意する資料

6

受講後の自分自身の変容は？

- 子どもを見ている中で、以前よりも「もしかして」とアンテナを張ることができるようになった。
- 検査を実施して、どこにつまずきがあるのかがわかり(やっぱり、なるほど)方針が定められた。
- 何が原因でつまずくのか、何か支援をしたらできるようになるのか、支援を考えたいと思った
- 今まで、ノートを書き終えてから休憩にしていたが、苦手な子に対しては大事な部分だけ写すように声かけをするようになった。
- がんばって書いたときには褒めて、少しでも書こうとした気持ちを認める声かけをするようになった。



7

講座を受けて、一斉指導の際に活かそうと思ったことは、どんなことでしたかどんなことでしたか？

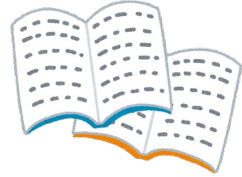
- クラスの中に読み書きに困り感をもつ児童がいることを想定し、板書や授業のスタイルを見直すこと。
- 読むときの工夫を知らせるようにすること。
- 書くことへの配慮をすること。
- どんな視点で子どもを見るか、児童理解の幅が広がること。そして広がった。
- 漢字指導のときには、形が似ている漢字を例に挙げて、形をなんとなく捉えられるようにすること。
- ICTの活用の幅を広げるようにすること。



8

講座を受けて、個別の場で、指導に活かそうだ
と思ったことは、どんなことでしたか？

- 検査の内容も勉強になったが、児童の困り感に対してさまざまな個別支援のやり方があるということ。
- 検査の実施をしていく。
- その子にあった読み書き方法を一緒に探ること。
- 支援の方法やできる手立てを考えるようにすること。
- ノート指導の際に、簡単にまとめて書く方法と詳しく書く方法の2つを提示して選ばせるようにする場をつくり、負担を減らすこと。



9

読み書きアセッサー養成講座の開催

- この後2回オンラインでの検討会を実施
 - アセスメント実施方法について検討会実施
 - 校内での事例検討会実施
 - アセスメントの一部を抽出学年にて試験的に実施
 - 今後は・・・
- アプリでの読み書きアセスメントの実施を目指す



10

ある学年での実施

【実施対象】 Y小学校●年生 ●名

【実施日時】 朝学習の時間を使って実施中（15分枠）

※ 日を分けて実施

【実施方法】 担任が一斉に実施

【実施アセスメント】 東京都教育委員会

読み書き検査

単語探索課題

（小学生用）他



11

ひらがな単語の読み

「ひらがな単語の読み」はソフト中の「単語連鎖」
に結果を入力し評価を行います。

• 練習の後で、本番テストを行います。
• 先生の「はじめ」の合図で、子どもはページをめくり、解答をはじめます。制限時間は1分です。1分たったところで、「終わり」と合図し、次の課題に進みます。

＜教示＞

- ① 「今から言葉を探す問題をやります。」
- ② 「練習問題のページが開けましたか、今から問題のやり方を説明します。よく聞いてください。」
- ③ 「ひらがながたくさん並んでいます。この中に2文字か3文字の物の名前が隠れています。左から右に探して行って、見つけたら丸で囲みましょう。例を見てください。ここには「するめ」と「へそ」が隠れていますね、ですから、丸をつけます。」
- ④ 「もし、まちがえて丸を付けてしまったら、消しゴムは使わずに、大きく×を書き、正しいところに丸をしてください。」
- ⑤ 「では、練習してみましょう。30秒時間をとりますから、言葉を探してみましよう。できた人は机の上にえんぴつを置いて待っていてください。」

全員が終わり、やり方を正しく理解できたら本番に進みます

⑥ 「では、本番に移ります。次のページにはたくさんのひらがなが並んでおり、この中に2文字か3文字の物の名前が隠れています。練習と同じように、左から右に探して行って、1行おわたら次の行に、とうようできるだけ早く、たくさんの言葉を見つけてみましょう。」
- ⑦ 「では、先生の「はじめ」の合図でページをめくり、問題を始めましょう。はじめ。」
- ⑧ 「1分経ったら」やめ、鉛筆を置いてください。これで、言葉を探す問題は終わりです。」


12

らるくまにねこたやへくるまわ
 すとうふのほいぬそくけみみは
 ひつきゆぬちなすおろたこひよ
 きつねあこめるきろいるかふと
 れかよすしういはさみゆいかえ
 ちなもちきほめりすけくりよも
 るゆきさせくつてゆしおへなそ
 つくえてかつおせくやとらのも
 あるてかにほえももせらはとに
 よすありのいもたのひあひるけ
 れかるたゆつにたぬきおわあめ
 へねとけいさうめろそちせみぬ
 るのりむめきいすへねうみいふ
 きのこはにらゆそくるみまうわ

13

アセッサー（担任）の感想

- 「やっぱりそうだったのか」と自分の見立てに自信をもてた。
- 行動が遅い子、指示どおり動けない子の行動の背景にあるものが少し見えたような気がした
- 伝え方や学習に取り組む際の配慮事項をもう一度見直す必要があると感じた。
- 保護者との教育相談を実施しようと思う。



14

今後の課題とその展望

- 読み書きについて教師側の心構え
- 職員全員への研修 検査のハードルをさげる
- 保護者や他の職員等の理解を深め広げること。さらにはその順序も検討の必要がある
- アセスメント実施目的の共通理解
- アセスメント実施に向けた時間の確保
- アセスメント実施後の支援体制の確立
- 実施後の子どものフォロー
 (何をすればよいのか どこにつないだらよいのか)
- アセスメントを実施する教員?の力をつけること
 (実施後のフィードバック、結果の活用)

15

ご清聴ありがとうございました。

今後も集団アセスメントの可能性を
 探っていきたいと思えます。

16

まとめ：これらの試みからわかること

- オンライン上のアプリでのチェックは、読み書き障害についての正しい知識普及につながる
- アセスメントを集団実施することで、多くの人にアセスメントの機会を提供できる
- 集団実施でも、個別実施と同様に、保護者にとっても、教員にとっても、支援を考えるための客観的な指標として有効である
- アセスメントは、レッテル貼りや排除の道具ではなく、支援とペアになっていることを周知し、アセスメントにつながりやすいような広報活動が必要
- 集団実施においては、行動上の問題を併存している子どもがいることを前提に準備をする必要がある（読み書き障害と他の発達障害との併存率は高い）

エッジからのお知らせ

1. アセッサー養成講座
2. ディスレクシアセミナー
3. 集団アセスメントパッケージ
4. エッジで行っている個別相談・アセスメント
5. LSA（学習支援員養成講座）

1

1. アセッサー養成講座

個々の子ども・児童生徒の「味方」となるべく、アセスメントを行い、個別最適化された対応方法を提案することができるようになるためのコースです。集団アセスメントに使用するバッテリーを学べます。読み書きの困難さの指標であるスピード・流暢性と正確性を測る検査ができるようになります。そしてその検査結果をもとに、そのお子さんにあった対処方法の具体的な提案の仕方が学べ、直接支援に結びつけることができるようになります。

次回の開催日：3月4日（土）5日（日）両日とも10時～16時（港区の会場とZOOM同時開催）
（8月11日（祝・金）12日（土）にも同講座を開催予定）

講師：河野俊寛

2. ディスレクシアセミナー

「ディスレクシアってなあに」ディスレクシアについての基本の理解と支援について、代表の藤堂が質疑応答を交えて解説します。

次回の開催日：3月18日（土）10時～12時（ZOOM開催）

2

3. 集団アセスメントパッケージ

集団アセスメントをご自分の地域や団体で行ってみたいとお考えの方向けパッケージです。来年度は2～3箇所募集し、日本財団の助成金の元行う予定です。

4. エッジで行っている個別相談・アセスメント

エッジでは集団アセスメントとは別に、さらに詳しいアセスメントを行っています。現在代表の藤堂の相談を受けられた方でご希望の方に詳細アセスメントをご提供しています。

5. LSA（学習支援員養成講座）

学習支援員を目指す方だけでなく、実際に指導にあたられている教員や講師の方、保護者の方まで、発達障害等の困り感を抱えている子どもについて、知識を体系化し全体像を把握したい方向けの講座です。教育・医療・福祉面から法律まで幅広いジャンルから知識を得ることができるのが特徴です。『入門コース』は2023年6月まで受講生募集中、『本コース』は7月開講で12月末迄、コース修了後は『コミュニティ』にご参加頂けます。

3

アンケートはこちらから（回答期限2月28日）



ご希望の情報をアンケート内で回答いただければ、後ほどお送りいたします。

4